

経営比較分析表（平成30年度決算）

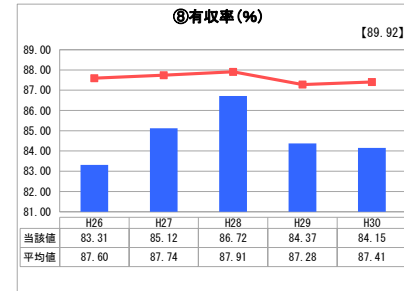
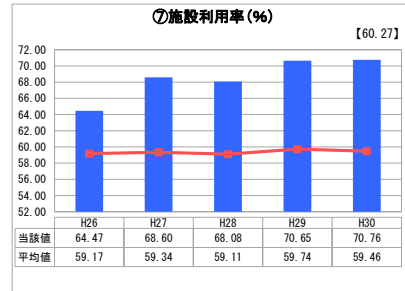
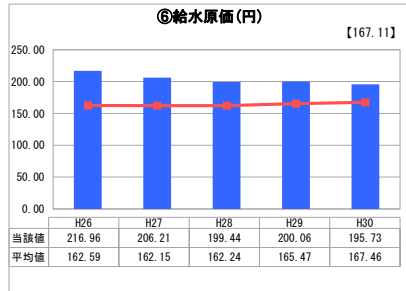
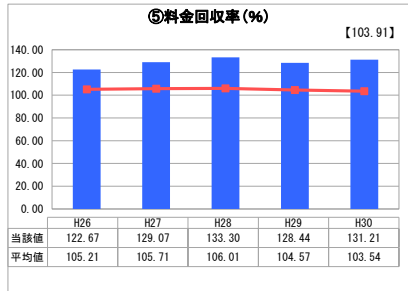
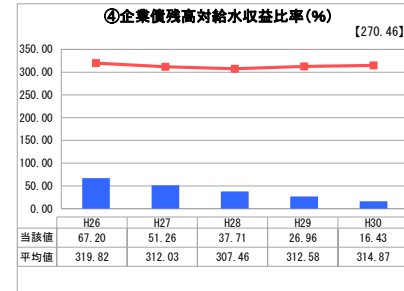
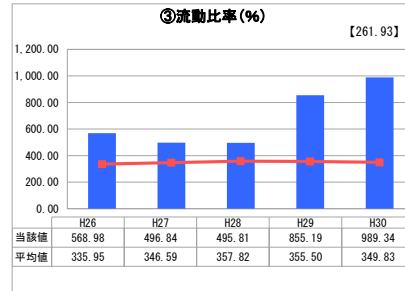
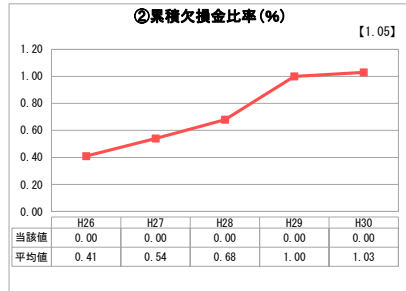
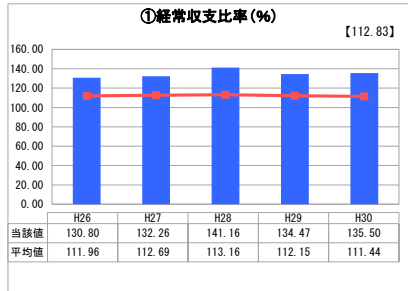
宮城県 名取市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	95.53	99.69	3,272	

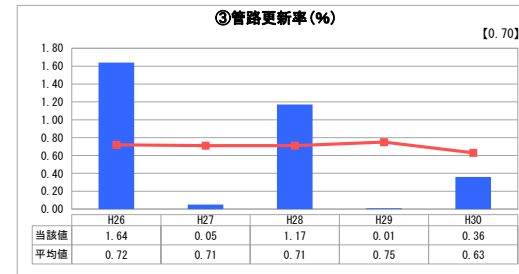
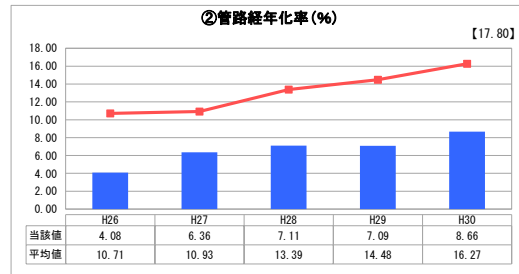
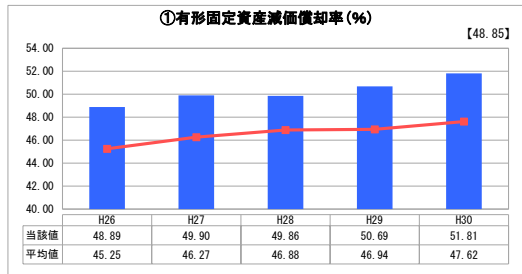
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
78,544	98.17	800.08
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
78,428	98.17	798.90

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、類似団体よりも数値が上回っており健全な経営状況にあると言える。
 ②累積欠損比率については、本市においては欠損金残高が無いため発生していない。
 ③流動比率は、流動資産（現金預金）の増加により上昇し、類似団体と比しても良好な数値である。
 ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体と比して低い。新規の債務は発生しておらず、今後も減少が見込まれる。
 ⑤料金回収率については、給水原価の減（企業債利息の減など）に伴い増加したものの、類似団体平均及び100%を上回り、適切であると言える。
 ⑥給水原価は、配水量の多くを受水で賅っていることから類似団体の平均より高くなっている。
 ⑦施設利用率については、類似団体や全国の平均を大きく上回っており、移動施設の規模や利用状況については適正であると見ている。
 ⑧有収率については、類似団体より低い割合にある。平成30年度は、前年度と比較して震災地区（関上）配水管水質保全の為の排水量増加また、本管漏水事故（植松字錦田）に伴う漏水量の増加などにより有収率が下がった。今後も引き続き、漏水調査や老朽配水管等の更新を行い、有収率向上の対策を講じていく。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、上昇しており施設の老朽化が進んでいる状況にある。今後も引き続き、施設状況を的確に把握した上で、日常的な修繕、補修による延命化を図りつつ、「アセットマネジメント」における更新需要に基づき、計画的に更新を行っていく。
 ②管路経年化率については、類似団体平均よりも下回っており、毎年継続した配水管更新事業を市内全域において計画的に行っている。ここ数年で上昇が見られるのは、昭和50年前後に布設された管路が耐用年数を迎えつつあること、それに対する更新が必要であることを示している。
 ③管路更新率については、復興事業を進めつつ「アセットマネジメント」における更新需要に基づき、管路における重要度及び管路劣化調査結果等から更新の優先順位を設定し、これに基づいた計画的な更新を行っている。

全体総括

国平均値、類似団体平均値と比しても、全体的に各種指標を通して健全な経営状況にあると言える。分析の数値的に見て、当市独自の状況として震災の復興工事関連の影響が一部あり、工事完了まで続くことが予測される。
 安定した経営のために、復興を進めつつ今後更に老朽化が進む施設更新の財源確保のため、経営の効率性向上を目指すと共に、限られた財源の中で計画的な更新を行う必要がある。策定済の「アセットマネジメント」「新水道ビジョン」に基づき、計画的な経営と施設更新を進めているところである。